

読書の小径

Vol.118
土岐市図書館
☎ 1253

新刊案内

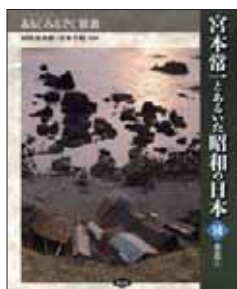


「ちがうねん」
ジョン・クラッセン



「わたしのゆたんぽ」
きたむらさとし

卑弥呼は何を食べていたか	廣野卓
ギャルと不思議ちゃん論	松谷創一郎
気になる科学	元村有希子
ずさんな家計を整えました。	上大岡トメ
人生とは勇氣	児玉清
英語で伝える和のおみやげ図鑑	広田千悦子
展覧会いまだ準備中	山本幸久
なんらかの事情	岸本佐知子



「東北」

東日本大震災から間もなく2年。今も東北の復興を支援するさまざまな活動が行われています。今回は、いろいろな観点から「東北」を捉えた本を紹介します。色川大吉『東北の再発見―民衆史から読み直す―』。民衆史の第一人者が、東北で語り継がれてきた無名・有名な人々の姿を軸に、東北人の実像に迫ります。今、復興に参加している人々に「東北の底力を見直す」一つの歴史的素材を提供したいと考えて編めました。

稲泉連『命をつないだ道―東北・国道45号線をゆく―』。宮城県仙台市から青森県青森市まで、東日本大震災の被災各地を貫く国道45号線。震災直後、大量の瓦礫や土砂にふさがれた「東北の大動脈」は、わずか一週間でほぼ復旧し、多くの救援物資や救助隊がその先へと向かって行きました。余震が収まらぬ中、危険を顧みず「命の道」を守り続けた人々の物語です。

須藤功／編『宮本常一とある昭和の日本』東北①③。1967年から88年まで刊行された月刊誌『あるくみるきく』は宮本常一のほか、彼を慕って集まった若い学究たちによる全国の風土や暮らしを訪ね歩いた報告が掲載されています。高度経済成長で失われる前の日本の姿を捉えた貴重な記録とされるこの雑誌を再構成して地域別にまとめた本書には、昭和の東北が活写されています。

3月の休館日

4日(月)、11日(月)、18日(月)、22日(金)、25日(月)

開館時間

火～金曜日 10:00～19:00
土・日曜日、祝日 10:00～17:00

図書館は無料でご利用いただけます。

お知らせ

3月10日(日)午後1時30分から、文化プラザ視聴覚室で「読み聞かせフェスティバル」を開催します。図書館などで活動しているボランティアの皆さんによるペープサート(紙人形劇)での「土岐市の昔話」の上演や紙芝居、手遊びなどが楽しめます。ぜひ遊びに来てください。